



自動インストールによるファームウェアのアップグレード

この章は、次の内容で構成されています。

- [自動インストールによるファームウェアアップグレード, 1 ページ](#)
- [自動インストールのための必要な手順, 2 ページ](#)
- [自動インストールによるインフラストラクチャのファームウェアのアップグレード, 3 ページ](#)
- [プライマリ ファブリック インターコネクトのリブートの確認, 5 ページ](#)
- [インフラストラクチャ ファームウェアのアップグレードのキャンセル, 6 ページ](#)
- [自動インストールによるサーバファームウェアのアップグレード, 6 ページ](#)

自動インストールによるファームウェアアップグレード

自動インストールでは、次の2つの段階によって、Cisco UCS ドメインを1つのパッケージに含まれるファームウェアバージョンにアップグレードすることができます。

- **インフラストラクチャファームウェアのインストール**：Cisco UCS インフラストラクチャソフトウェアバンドルを使用して、ファブリック インターコネクト、Cisco UCS Manager などのインフラストラクチャコンポーネントをアップグレードします。
- **サーバファームウェアのインストール**：Cisco UCS M シリーズサーバソフトウェアバンドルを使用して、Cisco UCS ドメインのすべてのサーバをアップグレードします。

この2つの段階は独立したものであり、異なる時刻に実行することや、実行されるようにスケジューリングすることができます。

自動インストールを使用して、インフラストラクチャコンポーネントをCisco UCSのあるバージョンに、またサーバコンポーネントを異なるバージョンにアップグレードすることができます。

インフラストラクチャ ファームウェアのインストール

インフラストラクチャ ファームウェアのインストールでは、Cisco UCS Manager など、Cisco UCS ドメイン内のすべてのインフラストラクチャコンポーネントと、すべてのファブリックインターコネクトをアップグレードします。すべてのコンポーネントが、選択した Cisco UCS インフラストラクチャ ソフトウェア バンドルに含まれるファームウェア バージョンにアップグレードされます。

インフラストラクチャ ファームウェアのインストールでは、Cisco UCS ドメイン ドメイン内の一部のインフラストラクチャ コンポーネントだけを対象とする部分アップグレードはサポートしていません。

メンテナンス ウィンドウに対応する特定の時刻にインフラストラクチャのアップグレードをスケジュールできます。ただし、インフラストラクチャのアップグレードが進行中の場合、別のインフラストラクチャのアップグレードをスケジュールすることはできません。次のアップグレードをスケジューリングするには、現在のアップグレードが完了するまで待つ必要があります。



- (注) インフラストラクチャ ファームウェア アップグレードが今後行われる予定の場合は、キャンセルできます。ただし、インフラストラクチャ ファームウェア アップグレードがいったん開始すると、キャンセルすることはできません。

サーバ ファームウェアのインストール

サーバファームウェアのインストールでは、ホストファームウェアパッケージを使用して、Cisco UCS ドメイン内のすべてのサーバおよびコンポーネントをアップグレードします。サービスプロファイルに選択したホストファームウェアパッケージが含まれているサーバは、次のように、選択したソフトウェア バンドルのファームウェア バージョンにすべてアップグレードされます。

- すべてのサーバ用の Cisco UCS M シリーズ サーバ ソフトウェア バンドル。



- (注) [サーバファームウェアのインストール] ウィザードの設定が完了した後で、サーバファームウェアのアップグレードプロセスをキャンセルすることはできません。Cisco UCS Manager は、変更を即座に反映します。ただし、サーバが実際にリブートされるタイミングは、サーバに関連付けられたサービス プロファイル内のメンテナンス ポリシーによって異なります。

自動インストールのための必要な手順

Cisco UCS ドメインのすべてのコンポーネントを同じパッケージ バージョンへアップグレードする場合は、自動インストールの各ステージを次の順序で実行する必要があります。

- 1 インフラストラクチャ ファームウェアのインストール
- 2 サーバ ファームウェアのインストール

この順序で実行すると、サーバのファームウェアアップグレードをインフラストラクチャのファームウェアアップグレードとは異なるメンテナンス ウィンドウにスケジュールすることができます。

自動インストールによるインフラストラクチャのファームウェアのアップグレード

Cisco UCS Manager GUI のリリースが 2.1(1) よりも古い場合、[Firmware Auto Install] タブは使用できません。

はじめる前に

[ファームウェアのアップグレードとダウングレードの前提条件](#)に記載のすべての前提条件を満た

はじめる前に

[ファームウェアのアップグレードとダウングレードの前提条件](#)に記載のすべての前提条件を満たす必要があります。

Cisco UCS ドメインが NTP サーバを使用して時間を設定しない場合、プライマリ ファブリック インターコネクとセカンダリ ファブリック インターコネクの時計が同期されていることを確認します。Cisco UCS Manager で NTP サーバを設定するか、時間を手動で同期することによってこれを行うことができます。

手順

-
- ステップ 1 [Navigation] ペインの [Equipment] タブをクリックします。
 - ステップ 2 [Equipment] タブで、[Equipment] ノードを展開します。
 - ステップ 3 [Work] ペインの [Firmware Management] タブをクリックします。
 - ステップ 4 [Work] ペインの [Firmware Auto Install] タブをクリックします。
 - ステップ 5 [Actions] 領域で、[Install Infrastructure Firmware] をクリックします。
 - ステップ 6 **[Install Infrastructure]** ダイアログボックスの [Prerequisites] ページで、先に進む前に警告に対処します。
警告は次のカテゴリに分類されています。
 - 進行中の致命的または重大な障害があるかどうか。
 - コンフィギュレーション バックアップが最近実行されているかどうか。
 - 管理インターフェイスのモニタリング ポリシーが有効かどうか。
 - 保留中のファブリック インターコネクのリブート アクティビティがあるかどうか。

- NTP が設定されているかどうか。

各警告のハイパーリンクをクリックして直接処理することができます。処理した警告の各チェックボックスをオンにするか、警告を処理せずに続行する場合は [Ignore All] チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 [Install Infrastructure Firmware] ダイアログボックスの [Properties] 領域で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[Name] フィールド	Cisco UCS によって作成および管理されるインフラストラクチャパックの名前。このフィールドのデフォルト名を変更したり、カスタムインフラストラクチャパックを作成することはできません。
[説明] フィールド	インフラストラクチャパックのユーザ定義による説明。このフィールドはデフォルトで入力されています。ただし、必要に応じて独自の説明を入力することもできます。 256 文字以下で入力します。次を除く任意の文字またはスペースを使用できます。` (アクセント記号)、\ (円記号)、^ (caret)、" (二重引用符)、= (等号)、> (大なり)、< (小なり)、または' (一重引用符) は使用できません。
[Version] ドロップダウン リスト	インフラストラクチャコンポーネントのファームウェアアップグレードに使用できるソフトウェアバンドルのリスト。
[Force] チェックボックス	オンにすると、Cisco UCS では、選択したバージョンを前回インストールしようとしたときに失敗または中断した場合でも、インストールを試みます。

ステップ 8 [Install Infrastructure Firmware] ダイアログボックスの [Infrastructure Schedule] 領域で、次のいずれかの操作を実行します。

オプション	説明
[Start Time] フィールド	オカレンスが実行される日時。 フィールドの端にある下矢印をクリックして、カレンダーから日付を選択します。
[Upgrade Now] チェックボックス	オンにすると、Cisco UCS Manager は [Start Time][Start Time] フィールドフィールドを無視して、[OK] がクリックされるとすぐにインフラストラクチャファームウェアをアップグレードします。

ステップ 9 [OK] をクリックします。

[Firmware Auto Install] タブの [Firmware Installer] フィールドには、インフラストラクチャのファームウェア アップグレードのステータスが表示されます。

(注) ブートフラッシュに十分な空き領域がない場合、警告が表示され、アップグレードプロセスは停止します。

次の作業

プライマリ ファブリック インターコネクトのリポートを承認します。リポートを承認しない場合、Cisco UCS Manager はインフラストラクチャのアップグレードを完了できず、アップグレードは無期限に保留になります。

プライマリ ファブリック インターコネクトのリポートの確認



注意

アップグレード時の中断を最小限に抑えるには、次のことを確認する必要があります。

- ファブリック インターコネクトとサービス プロファイルの両方がフェールオーバー用に設定されていることを確認します。
- プライマリ ファブリック インターコネクトのリポートを承認する前に、セカンダリ ファブリック インターコネクトからデータ パスが正常に復元されていることを確認します。詳細については、[データ パスの準備が整っていることの確認](#)を参照してください。

インフラストラクチャファームウェアをアップグレードした後、インフラストラクチャファームウェアのインストールは自動的にクラスタ設定内のセカンダリ ファブリック インターコネクトをリポートします。ただし、プライマリ ファブリック インターコネクトのリポートは、ユーザが承認する必要があります。リポートを承認しなかった場合、インフラストラクチャファームウェアのインストールはアップグレードを完了するのではなく、その承認を無期限に待ちます。

手順

- ステップ 1 ツールバーの [Pending Activities] をクリックします。
- ステップ 2 [Pending Activities] ダイアログボックスで、[User Acknowledged Activities] タブをクリックします。
- ステップ 3 テーブルで、プライマリ ファブリック インターコネクトの保留中のリポートの行を探します。
- ステップ 4 その行の[Reboot Now] カラムで [Acknowledge All] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5 [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager 即座にプライマリ ファブリック インターコネクタがリブートされます。[OK] をクリックした後にこのリブートを停止することはできません。

インフラストラクチャファームウェアのアップグレードのキャンセル



(注) インフラストラクチャファームウェアアップグレードが今後行われる予定の場合は、キャンセルできます。ただし、インフラストラクチャファームウェアアップグレードがいったん開始すると、キャンセルすることはできません。

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインの [Equipment] タブをクリックします。
- ステップ2 [Equipment] タブで、[Equipment] ノードを展開します。
- ステップ3 [Work] ペインの [Firmware Management] タブをクリックします。
- ステップ4 [Work] ペインの [Firmware Auto Install] タブをクリックします。
- ステップ5 [Actions] 領域で、[Install Infrastructure Firmware] をクリックします。
- ステップ6 [Install Infrastructure Firmware] ダイアログボックスの [Actions] 領域で、[Cancel Infrastructure Upgrade] をクリックします。
- ステップ7 Cisco UCS Manager GUI に確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ8 [OK] をクリックします。

自動インストールによるサーバファームウェアのアップグレード

Cisco UCS Manager GUI のリリースが 2.1(1) よりも古い場合、[Firmware Auto Install] タブは使用できません。



- (注) [サーバファームウェアのインストール] ウィザードの設定が完了した後で、サーバファームウェアのアップグレードプロセスをキャンセルすることはできません。Cisco UCS Managerは、変更を即座に反映します。ただし、サーバが実際にリブートされるタイミングは、サーバに関連付けられたサービスプロファイル内のメンテナンスポリシーによって異なります。

はじめる前に

ファームウェアのアップグレードとダウングレードの前提条件に記載のすべての前提条件を満たす必要があります。

手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインの [Equipment] タブをクリックします。
- ステップ 2** [Equipment] タブで、[Equipment] ノードを展開します。
- ステップ 3** [Work] ペインの [Firmware Management] タブをクリックします。
- ステップ 4** [Work] ペインの [Firmware Auto Install] タブをクリックします。
- ステップ 5** [Actions] 領域で、[Install Server Firmware] をクリックします。
- ステップ 6** [Install Server Firmware] ウィザードの [Prerequisites] ページで、このページに一覧されている前提条件とガイドラインを慎重に確認してから、次のいずれかを実行してください。
- 前提条件をすべて満たしている場合は、[Next] をクリックします。
 - 前提条件をすべて満たしていない場合は [Cancel] をクリックして、サーバのファームウェアをアップグレードする前に前提条件を満たしてください。
- ステップ 7** [Install Server Firmware] ウィザードの [Select Package Versions] ページで、次の手順を実行します。
- a) Cisco UCS ドメインにブレードサーバが含まれている場合は、[B-Series Blade Server Software] 領域の [New Version] ドロップダウン リストから、これらのサーバをアップグレードするソフトウェアバンドルを選択します。
 - b) Cisco UCS ドメインにラックマウントサーバが含まれている場合は、[C-Series Rack-Mount Server Software] 領域の [New Version] ドロップダウン リストから、これらのサーバをアップグレードするソフトウェアバンドルを選択します。
- Cisco UCS ドメインにブレードサーバとラックサーバの両方が含まれている場合は、[Select Package Versions] ページで B シリーズブレードサーバおよび C シリーズラックマウントサーバの新しいファームウェアバージョンを選択して、ドメイン内のすべてのサーバをアップグレードすることを推奨します。
- (注) デフォルトのホストファームウェアパッケージを更新すると、関連付けられていないサーバと、ホストファームウェアパッケージを含まないサービスプロファイルを持つサーバのファームウェアがアップグレードされることがあります。このファームウェアアップグレードにより、サービスプロファイルで定義されたメンテナンスポリシーに従ってこれらのサーバのリブートが発生する可能性があります。

- c) Cisco UCS ドメインに M シリーズ サーバが含まれている場合は、[M-Series Server Software] 領域の [New Version] ドロップダウン リストから、これらのサーバをアップグレードするソフトウェア バンドルを選択します。
- d) [Next] をクリックします。

ステップ 8 [Install Server Firmware] ウィザードの [Select Host Firmware Packages] ページで、次の手順を実行します。

- a) 選択したソフトウェアで更新するホスト ファームウェア パッケージが含まれる各組織のノードを展開します。
- b) 更新する各ホスト ファームウェア パッケージの名前の隣にあるチェックボックスをオンにします。
この手順によって、選択したホスト ファームウェア パッケージが新しいバージョンのファームウェアによって更新されます。すべてのサーバを更新するには、Cisco UCS ドメインのすべてのサーバに関連付けられたサービスプロファイルに含まれているホストファームウェアパッケージを選択する必要があります。
- c) [Next] をクリックします。

ステップ 9 [Install Server Firmware] ウィザードの [Host Firmware Package Dependencies] ページで、次の手順を実行します。

- a) テーブルに表示される各ホスト ファームウェア パッケージのノードを展開します。
- b) ホスト ファームウェア パッケージが含まれるサービス プロファイルのリストを確認します。
- c) 必要に応じて、次のいずれかのカラムにあるリンクをクリックします。
 - [Host Pack DN] カラム：ホスト ファームウェア パッケージのナビゲータを開きます。
 - [Service Profile DN] カラム：サービス プロファイルのナビゲータを開きます。
- d) 次のいずれかを実行します。
 - 選択したホスト ファームウェア パッケージを 1 つ以上変更する場合は、[Prev] をクリックします。
 - 適切なホストのファームウェアパッケージを選択済みで、エンドポイントのサーバファームウェアのアップグレードの影響を確認する場合は、[Next] をクリックします。
 - サーバのアップグレードをただちに開始する場合は、[Install] をクリックします。

ステップ 10 [Install Server Firmware] ウィザードの [Impacted Endpoints Summary] ページで、次の手順を実行します。

- a) [Impacted Endpoints] テーブルで結果をフィルタリングするには、該当するチェックボックスをクリックします。
結果は、エンドポイントのタイプや、アップグレードの影響が重大であるかどうかによってフィルタリングできます。
- b) 影響を受けるエンドポイントのリストを確認します。
- c) 必要に応じて、[Maintenance Policy] カラムのリンクをクリックして、そのポリシーのナビゲータを開きます。

d) 次のいずれかを実行します。

- 選択したホストファームウェアパッケージを1つ以上変更する場合は、[Prev] をクリックします。
- 適切なホストファームウェアパッケージを選択済みで、サーバのアップグレードを開始する場合は、[Install] をクリックします。

ステップ 11 (任意) サーバファームウェアのアップグレードの進行状況をチェックするには、アップグレードする各サーバの [FSM] タブをチェックします。
[Firmware Auto Install] タブの [Firmware Installer] フィールドには、インフラストラクチャファームウェアのアップグレードのステータスだけが表示されます。
